

小さなお庭ですが、富士宮北にとっては大きな飛躍だ！

令和8年3月18日

日本の学校の3月と、「一隅を照らす」

『体育会系』（小野雄大著 中公新書）という新書を手を取った。大学の運動部が中心に据えられているが、戦後日本を支えた「働く」姿勢などを想起させて興味が湧いたのです。私は不勉強でしたが、「体育会系」は1960年代の大学闘争の中で、一般学生と運動部の学生を区別するために生まれたそうです。そして、どちらかという権力側に組み込まれたとの指摘もありました。

この働く姿勢に触れたのは、学校の3月というのは、生徒、教職員、（おそらく保護者の皆さまも）、大変忙しい。校長通信 no17 で触れましたが、年度代わりがあるからです。生徒の皆さんにとっても、出会い別れ、新たな生活、そして、新たな世界への準備。本当に忙しくなります。この時期をどう過ごすか、私はとても大切なことだと思っていますし、一日、一日、何が自分にとって必要なのか自分で考えていただきたいのです。「勉強」（あまり使いたくない言葉ですが）、しっかり時間確保した方が良いですよ!! あっという間に時間は過ぎるから。

「一隅を照らす」という言葉があります。これはある尊敬する先輩が使っていた言葉です。歴史に登場する天台宗の僧侶最澄が『山家学生式』で用いたとされていますが、この「一隅」とは、今自分がいる場所や、置かれた立場を指し、その、自分自身の置かれた場所で、精一杯努力し、光輝くことのできる人こそ、何ものにも代え難く尊いという意味を持ちます。そして、その姿勢が自分を照らすことになり、その照らされた光源が他の人にも響いていくというのです。さて、学校における生徒、教職員にとって、あなたが置かれている場所はどんな場所でしょうか。これまでの振り返り、4月からの未来の準備など、小さなことで良いから精一杯努力しておきたいですね。

株式会社 MACRW とのアントレプレナーシップ醸成ワークショップ by 静岡県立大学

3月14日、静岡県立大学が主催し、株式会社 MACRW マクルウの作るスポーツ車椅子を使った、「新たな遊び」を考えようというアントレプレナーシップ醸成型のワークショップを富士宮北高校で実施しました。これは、令和8年度に、構想している産官学のコンソーシアムの構築を見据え、富士宮北高校の施設の使用、そして、富士宮4校や地元の高校生を集めることで、新たな学びを作り出すことを夢見ながら企画をしてきました。

そこで、起こった化学反応は素晴らしいものでした。「マクルウ社」さんの、スポーツ車椅子のカッコよさはもちろんですが、静岡県立大学の先生方の後方支援、事務局の企画、ファシリテーションを行った静岡県立大学の学生と、それを指導した草薙カルテッド。そして、富岳館、富士宮東、星陵、吉原工、そして、本校の生徒、教職員が互いに認め合いながら、アイデアを出し合い、練り合い、収束させていく!この一連の流れは、本当に素敵でした。これは、出来るようで出来ません。こうやって、未来は作られていくのだと、あらためて、そのつながりの重要性を再確認しました。こういうことを、今後は、富士宮北高校内にサテライトオフィスを設置して、実施していきたい。

ここにある、未来への要素は、

- (1) もの（*カッコいい!車椅子）
- (2) ひと（*高校生、大学生、大人（企業、教員、行政、地域おこし））
- (3) 場（*対話をする空間）
- (4) 気持ち（*希望者を集まってもらう）
- (5) ギミック（*進め方、人をその気にさせる）が思いつく。

そして、何よりも「対話」と「探究心」。

これらを融合させると、こんなにも面白いんだと思われました。

それぞれが得意なものを持ち寄って、「とりあえずやってみる」

これからもどんどん企画したい。小さく始めたらいいんです。

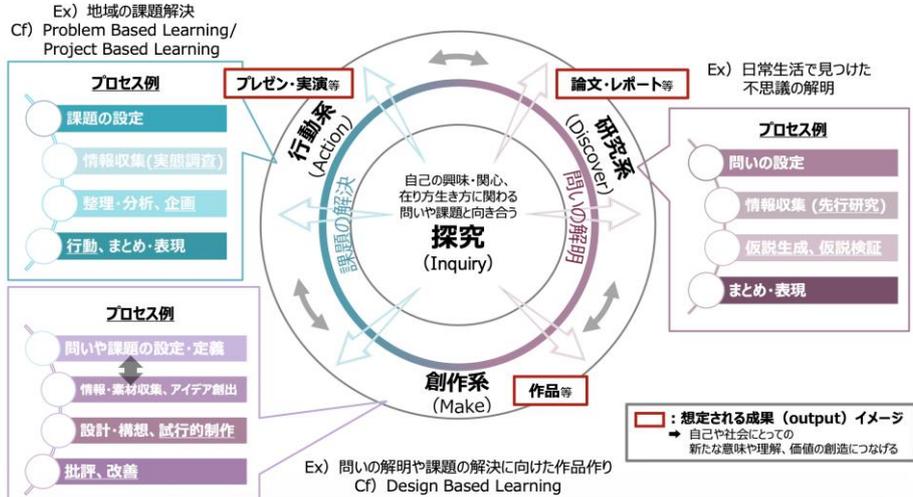
大きくなるか、小さいままか、どちらでもいいんです。正解なんか、誰にもわからないんですから。



アサギマダラプロジェクトと、これからの総合的な探究の時間

現在、文科省(国)では、約10年ごと改訂される、新しい学習指導要領の議論が始まっています。昨年の12月26日、**教育課程部会総合的な学習・探究の時間ワーキンググループで議論された一つ**が、今、各学校で盛んに行われている「探究」の整理です。難しい議論もたくさんありますが、ぜひ、教職員、生徒、保護者の皆さんも、これからの高校生にはどんなことが

求められているのか、ちょっと「せのび」して国の議論を読んでみてはどうでしょうか。3月7日静岡新聞東部版に「アサギマダラ舞う学校へ」という記事が掲載されました。「たくさん飛来してくれたら、一般の人にも見に来てもらいたい。」そんな生徒の願いが込められています。その生徒は「このプロジェクトで、**コミュニティ**を作りたい」といいます。



アサギマダラプロジェクト「バタフライ Mini ガーデン」設置に、学校としての「フジバカマウォーク」設置。数年後、総合的な探究の時間で探究したことを社会に還元するといった取組を行うという、**小さな一歩を踏み出すことのできる生徒がどんどん羽ばたいていく学校になってほしい。なぜ、アサギマダラか??** それは、ぜひ、知らない方は本校に来て、本校の生徒たちに問いかけてほしい。そこにまた、新たな出会いと対話が生み出されますから。

市民文芸「ふじのみや」での小さな発見

富士宮市教育委員会は、市民文芸『ふじのみや』を創刊しています。その第52号に本校生徒の作品が載っています。その**〈小説の部〉**にある「回想～辿り着いたその先で～」(富士宮北高校 眞鶴百輝さん)の作品を読みました。なんとなく既視感のある人間像と、学校で日頃見ている風景に少しオーバーラップする描写に、青春真っ只中の心理状態がサスペンス的進んで、とても面白い。高校生の力は無限だと、あらためて感じましたし、**こういう小さな発見がたまらなく嬉しい**。随筆、詩、短歌、俳句でも生徒の作品があるので、ぜひみなさんも読んでほしい。

バラフライMiniガーデン



◆90年近く頑張ったヒノキですが、倒木の恐れがあり、伐採します。

「切り株で何かできないか?」募集中!



新年度に向けて「学び」していますか!?

令和8年度、富士宮北高校は、静岡県教育委員会の指定を受け、「**ラーケーション**」を始めます。すでに案内を始めていますが、平日に保護者ととともに、学んでくることを認めるというもので、欠席扱いとせず、申請、報告の形で行うことができます。さて、この3学期3月は、生徒のみなさん、どんな勉強法を持っていますか。基礎固め(復習)、新学年の先取(新しい教科書を読む、メモる)、薄い問題集を完全制覇、塾の春季講習に通う、いきたい進路先にインターンシップするなど**色々方法がありますが、1つ手に入れてほしい**。私は、ありきたりですが、厚い本を読みます。『「風の谷」という希望』(安宅和人著)読んで読んで終わりません。頑張ろう!